

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第1回）議事概要

1. 日 時：平成22年11月15日（月）14:30～16:30
2. 場 所：長崎県庁第一別館5階第3会議室
3. 出席者：都市再生委員会委員9名
協田安大委員長、有馬一郎委員、川添一巳委員、塚根進委員、外井哲志委員、
林一馬委員、平野啓子委員、山口純哉委員、渡邊貴史委員
（欠席2名：伊藤滋委員、石元雅広委員）
都市再生委員会事務局
長崎県 副知事（藤井 健）、知事公室長（田中桂之助）、
知事公室参事監（加藤 永）、まちづくり推進室長（松元栄治郎）、
まちづくり推進室（浦瀬俊郎、北島孝志、添川信一）
長崎市 副市長（椎木恭二）、都市計画次長（池田 宏）、
まちづくり推進室（飯田恭祥、濱崎一弘）

4. 内 容

○委員会の公開について

- ・公開方法については傍聴と議事録を公表する。
- ・ただし、議事録の氏名については公開しない。

○委員長の選任について

- ・委員長は昨年度に引き続き協田安大氏とする。

（委員長）

- ・検討の進め方について事務局から説明をお願いする。

（県事務局）

- ・資料3の説明

（委員長）

- ・委員の皆様からご意見等はないか。

（委 員）

- ・資料3のスケジュール表の下部に議会の予定が記載されているが、県議会も市議会も同時期ですか。

（県事務局）

- ・若干日程は異なるが、年4回の議会日程であり、ほぼ同じ時期である。

（委 員）

- ・県議会、市議会がそれぞれ分かるように記載願いたい。

（委員長）

- ・他になにもなければ、次に進めたい。
- ・松が枝周辺エリア整備計画（素案）について事務局から説明をお願いする。

(県事務局 加藤参事監)

- ・資料4を使用して説明。

(委員長)

- ・それでは、委員から一人ずつ意見をお伺いし、その後で、また個別に意見をいただくということで進めて行きたい。

(委員)

- ・外から見た場合の景観の面では、ランドマークとしてどう見せるか、大景観としてどう書き込むか少し不足している。
- ・内から見た場合の景観では、シークエンス景観に対する満足度という観点から、もう少しルートと意図の関係を明確にし、見せ場の設定を検討すべきである。景観に対する満足度を持続させる観点からは、移動初期における見せ場の設定、すなわち松ヶ枝埠頭からの移動の場合、香港上海銀行を松が枝埠頭からどう見せるかが重要である。そういった観点から見た場合、香港上海銀行に隣接する駐車場は、香港上海銀行の質を低める点において問題があるかと思う。見せ場の景観を設計する場合は、中心となる景観とともに、その周囲にある景観との関係も重要である。
- ・A I G近くにある駐車場の砂利舗装は、審美性が高くない。
- ・松が枝埠頭から長崎水辺の森公園にかけての歩道もいい感じはしない。松が枝埠頭からの利用者の行動をみる限り、利用者の水辺の公園に誘導しきれていない。

(委員)

- ・この計画では、施設整備などハード面が際だっているが、ソフト面はどのように組み込まれていくのかなと考えてしまった。ソフト面では資料4に、取り組みを進める(P17)、景観形成を推進する、保全する、保存を進める(P19)、夜ならではの賑わいを演出する(P21)等としか書かれていない。
- ・夜景にしても、景観にしても暮らしている人、生活している人の絶大な協力が必要である。市民、県民がどのような協力ができるのか。様々な団体もあるので、そうしたことを、どこかに記載いただきたい。

(委員長)

- ・具体的にはどういう形で入れるということですか。

(委員)

- ・ゾーニングや方法のところではなく、全体に関わる体制・手法といったことを別立てにする構成の仕方に入れ込んでいただければと思う。

(委員長)

- ・新しく検討する組織を設けてということですか。

(委員)

- ・松が枝に限定した活動ではないと思うが、既に色々な動きやグループがある。そうした活動について何かきっかけとなるものを盛り込んでいただきたい。

(県事務局)

- ・内容については今回お示ししていませんが、資料5の計画素案の目次の第4章、第5章の中で書いていきたい。

(委員)

- ・整備計画のレベルがどういうレベルのものになるのか、もっと細かい具体的なものになるのか分からなかった。
- ・この計画では、観光や交流人口の拡大とか「交流」が中心かと思う。市民の生活のしやすさといったものは見えてこない。そこで、この計画では誰を対象にしているのか。そこをはっきりしていただければと思う。
- ・外国のクルーズ船の話もそうだが、クルーズ船は長崎に何を求めているのか。はっきりしないとサービスしようにもできない。博多港のクルーズ船では、中国の方が多いが、市内観光はせずに買い物だけして船に戻り、宿泊は船中なので、お金はあまり落ちないと聞いている。長崎に何を求めているのか、長崎の中で何ができるのかを考えないといけない。魅力的なものがないとクルーズ船も増えないだろう。目的とする魅力はどの辺にあるのか良く見極めないと、難しいのではないか。
- ・中国の方も経済発展していくと、趣向が変わってくる。そうしたことも新しく調べていく必要があるのではないか。
- ・観光客は時間が限られている。行動できる時間の中で、どのくらい歩いたり、電車に乗ったりするのか。動ける範囲はおのずと決まってくる。現実的に動き回れるルートを決めて、その中に見せたいものを散りばめる。大景観を見せたいのならば、そういうポイントを結ぶルートを見つけて整備するというやり方もある。そう考えると、もう少し具体的なものになっていくのではないかと思う。そういうアプローチがあってもいいのではないか。

(県事務局)

- ・昨年、基本計画を策定する際にも、観光客だけなのかという指摘はあった。

(委員長)

- ・観光でも良いのではないかとも思うが、どうか。

(副知事)

- ・問題なのは、長崎市の人口減であり、20年後には20%減少する予測である。
- ・単純に考えれば今ある中心商店街もお客が20%減るわけで、交流人口を拡大させないと駄目だということになるが、これはすぐにはできないことである。そのため、時間をかけてきちんとやっていこうと思っている。
- ・市民の方が住みやすいといった状況も考えないといけないと思うが、ただ、長崎としては交流人口抜きに計画を作ることは難しいと思う。

(委員)

- ・ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想での常盤・出島地区の埋立計画では、ホテルを建てようということであったが、知事が変わって公園にしようということになった。クルーズ船が入港した時に、もし建物がドンと建っていたらどうなっていたかなと思う。長崎水辺の森公園や美術館等いいものをつくっていただいた。そういう意味では幸運に恵まれたと思う。
- ・昨年度開催した外科学会では、2000人の医者が長崎に来られた。出島は由緒ある場所であり、ぜひ出島ワープで2次会をしたいということで、出島ワープを開放してテントまで張って対応した。「出島」はそれなりに意味のある言葉と思った。長崎市も出島の復元では頑張っておられるが、出島周辺の再開発ではそういうことも考えながら進めていただきたい。
- ・料亭花月で静岡のIT産業の若い人達が50人ほど並んでいた。龍馬伝の影響が大きいとは思いますが、若い人が花月で宴会というのはあまり多くは考えられないが、そういう人

達もいるので、まちづくりを頑張ればあちこちから長崎に来てもらえるのではないだろうか。

(委員)

- ・松が枝地区は良いまちづくりになっていると思う。
- ・国際クルーズ船では、国内、欧米、アジアの方々がいらっしゃって各々目的も違う。観光客の目的を調査して目的にあった仕組みを作っていくべきである。
- ・私たちとしては、アメリカ、ヨーロッパの人にはもっと長崎を知ってもらいPRして欲しいと思う。また、さるくが根付いているので、まちなかを歩いてお金を落としていただきたいと思う。
- ・大浦天主堂とグラバー邸が世界遺産候補であるが、バッファゾーン対策をどう考えているのか。世界遺産の進捗状況もお聞かせいただきたい。
- ・ヘリコプターで夜景を見せるとか。軍艦島をライトアップする等して、ヘリで周遊を行うというのもいいなと個人的には思う。

(委員)

- ・色々な施設に緑があると落ち着く。軌道の側面に花壇とか試験的にでもいいので考えていただきたい。
- ・長崎サミットにおいて、夜間の観光の活性化として、LEDで活性化ということで提案した。長崎水辺の森公園で夜に散歩したり、ジョギングしたりする人もいるが、まだまだ暗い感じがする。明るいというか、夜でも集まりやすい環境、安心安全で快適に若者が過ごせる場所があればと思う。若者は夜でも行動するので、長崎の夜はどこに行けばいいのか、稲佐山が見れるところはないかとなると、長崎水辺の森公園かなと思い、整備を重視していただけないかということで発言した。
- ・おもてなしの部分というか、長崎人だからこそできる長崎人らしさを表に出すと面白いものができるのではないかと思うので、よろしくご検討願いたい。

(委員)

- ・長崎市中央部・臨海地域の都市再生ということで、長崎駅周辺、まちなか等ある中で、まずは松が枝をとということかと思う。主旨としては賛成する。
- ・ただ、この地区の特性をもっと書かれてはと思う。長崎県内全体を見ると、近年、最も多くの整備がされた地域ではないかと思う。美術館、出島ワープ、国際ターミナル等、多くの投資がされており、今後も市民病院の建て替えもある。結果としても良い方向に出ており、いい場所になった。
- ・松が枝地区は、まち中などの他の地区に比べれば、歴史が浅いと言える。幕末以降のものなので、外に向けて発信、見せていくのに何か付け加えてもいい場所であり、異国情緒などを出していく場所と思う。そこで、何かイメージを共有できるようなものがあればと思う。
- ・中国黄浦江西岸に上海バンド(外灘)というものがあり、当時の建築物が残っているが、川を挟んで対岸は近代的なものとなっている。そうした感じで、松が枝エリアは外向きの顔だとすればよく、例えば新長崎バンドとか、意味性や芸術性があってもいいのではないか。今の計画では回遊性など3つの目標があるが、旧大浦バンドや一番街にするなど目標をもって整備されればよいと思う。
- ・香港上海銀行や英国領事館があるが、そうした雰囲気はマンションで崩れてきている。
- ・また、閉館したホテルがマンションに変わると聞いている。もう少し誘導をしてもいいのではないか。そうするためにも、10年、20年先の目標、イメージを共有できないかと思う。

(委員)

- ・このエリアの位置づけとしては、新しいものが生み出される位置にあると思う。ここから国外へとか、ハブ機能があるので、ここから県内各地へ出て行くところ。ビジネス支援センターがあり、美術館があり、新しい動きが生まれている。
- ・今までは公で交わる場をつくってきたが、民間ではとなると、カフェも含めて出島ワーフくらいしかない。今後は民有地の誘導をどう図っていくか。湯布院の駅前も整備をされたが、キャラクターグッズを販売するなど観光地としてダメになったという事例がある。どう民間投資を誘導するのが問題である。
- ・事業者や市民の協力を取る必要もあるし、このエリアの計画として大きな問題と思う。このエリアは交わる場所であって、長崎から新しいものが生まれようとしているのを感じとっていただけるといいと思う。

(委員)

- ・松が枝地区は、まだハードがいるのかなと思う。10年後を考えるとどうか。
- ・駅周辺の話かもしれないが、コンベンション施設が足りない。コンベンションはハードが整備しないと来ないので、場所はどこになるかはわからないが、造る必要があると思う。
- ・夜は火が消えたようになる。ナイトハウスのようなものが必要と思う。
- ・長崎は墓碑みたいなものは多くあるが、長崎の文化とか中国の伝統等を肌で感じられる施設がない。
- ・シンボリックなものも欲しい。オペラハウスみたいな大きなものは無理でも、マーライオン程度のものがあればよい。その地区を象徴し、そこに行ったという気分になれるものが必要である。
- ・国際船バースには、今は1隻しか呼べないが、国際フェリーの導入を考えれば、2隻分は整備しないとバッティングしてしまう。早くやらないと駄目だと思う。観光客の行動は今と昔とでは違う。中国人観光客の行動も変わる。ソフト的にはその都度対応していけばいいが、ハードは10年先を見据えていかないと間に合わない。港湾計画の見直しもあるのであれば、ぜひ考えていただきたい。

(副知事)

- ・委員から話があったように、今はバースは1つしかない。10万トン級が入ると1隻しか入れない。総合計画の中で、クルーズ船を100隻に増やそうという目標を立てているところである。船会社も中国や東アジアのクルーズにどんどん参入してきているが、1バースしかないとの港に行ってしまうということになる。もう1バースの整備について改めて検討しないといけないと感じた。
- ・知事からも上海航路を復活できないかという話を受けており、そうすると定期航路として入ってくることになるが、一番重要になるのはC I Qの問題で、そうした点では松が枝は使いやすい。しかし、松が枝を使うと国際観光船が入れなくなり、検討課題と聞いている。
- ・外国人の意識が時代ごとに変化していることは、上海の旅行会社からも聞いており、以前は買い物中心だったが、今は離島に行きたいという話もあり、おいしいものと海のきれいなところがいいと言われている。
- ・日本人の外国旅行者は1800万人で、大阪万博時代の30倍であるが、昔は大挙して買い物をするというものだったが、今はそのようなことはしないで、フランスの田舎に行って文化を楽しむというようなものに変化してきている。
- ・中国も上海万博が終わって、丁度大阪万博の時の日本人と同じような状況であり、これから外国旅行が増大していくところであり、多様な文化や食が大事である。長崎は食に

関しては数多くあるが、顕在化出来ていない。次の世代を担って、長崎の強みを活かして先取りするようなことを行うべきである。

- この計画はハード中心になっている。シンボルが欲しい等、色々な提案をいただいたが、精神とかビジョンとかは大事だなと感じた。また、委員の言われるように市民参加が重要で、意見をどう吸い上げて行うのが大事だなと思った。

(委員長)

- 他に追加意見はありませんか。

(委員)

- 松が枝のターミナルなど、樹木もきれいであり、その流れで、南山手一带に緑を整備していただければと思う。市民の協力を得て、玄関に花を飾るなど緑をぜひ考えていただきたい。

(委員)

- 確かに航空写真を見ると松が枝埠頭のところだけ緑になっている。

(委員)

- エリアの話だが、まちなかと駅周辺はかぶっている。しかし松が枝と駅周辺は分かれている。中島川で切るのは分けすぎかなと思う。松が枝では外向きの交流やバースを増やしていくということがあるのであれば、さらに南側に設けるのは難しいだろうから、元船の大型商業施設の背後エリアまで含めると良いのではないか。そこから離島航路やフェリー出発するということもあり、そこまで含めて全体で考えると可能性はあるのかなと思う。エリアを変えられるのかどうかという点はあるかと思うが、検討いただければと思う。
- ここは、新しいものが生まれる予感が感じられるようなもので、もう少しまちなかに入って行くと、もっと古い長崎がある。とりあえずは、来た人が長崎に良い印象を持っていただけるようなものができるとうい。
- 幕末から明治、大正にかけての栄光の時代の長崎。それを現代化するにはどうしたらいいかということで、それは、先ほどから出ているアジアのクルーズであったりするのかもしれない。

(委員)

- 委員長から具体的に大景観を見るときはということかとのご指摘があったので説明したい。
- 大景観を眺めることは、地学でいうところの露頭観察のようなものだと思う。大景観のなかに点在する歴史的建造物は化石みたいなものである。点在する景観からその景観が立地する地域が形成された時代を推測する。以上から、歴史的資源が点在する地域の大景観は、そうした露頭観察をする態度のように眺められることが考えられ、そうしたことに留意した整備が必要かと思う。
- 特定の時代が感じられる主要な要素としては、たとえば、過去の大浦天主堂やグラバー邸、そして現在の松が枝エリアが挙げられる。またこれらが一体に見えることが非常に重要である。そのことで、歴史的重層性、時代の気質を感じられる景観として眺められることになるかと思う。
- 特定の景観とともに重要なのは、個別の景観はその周囲の景観の影響を受けるものである以上、周辺環境との連携を意識することが重要である。

(委員)

- ・長崎の新しいものを生み出す力はやはり落ちてきていると感じる。歴史もいいが、芸術や工芸などにも力を入れていいのではないか。ガラスを使ったものや本格的ガラスミュージアムはまだない。若手のガラス工芸家は数多く長崎にガラスを勉強しに来ているが、研修が終わると何処かに行ってしまう。例えば新しいターミナルの一角に若手のガラス工房があればよい。もっと芸術的な新しい文化を生み出すようなエリアをこの辺りにと思う。
- ・長崎は土産物が売れるので、工芸品の可能性はあるのではという印象を個人的には持った。そうした自立的に新しい流れをつくって行けるような施設を造って頂ければと思う。

(委員)

- ・私はちょっと違うかなと思う。
- ・新しいものを生み出す力がなくなってきたというのは切実な問題で、昔の名前に頼っている。そういう意味では、もう少しハード面で新しいものを建てる、建て替えていくということはあると思うが、そこで芸術的なものが生まれるかということ、そうではなく、もっと周辺で生まれるものと思う。
- ・人口が減る中で、人口が35万人等となると山手地区が全て生き残れるかということそうではないと思う。アート活動をしている外国人は、京都でも日本人が住んでいないようなところに住んでいたりする。長崎でも水の浦などの稲佐山周辺で、新しいアートの仕掛けなどで、アート活動等をしている人達が住み出すと面白いなと思う。

(委員)

- ・私も芸術が生まれるのは、大浦の山手地区や日通倉庫とかがふさわしいかなとは思っている。

(委員)

- ・今回の委員会には関係ないかもしれないが、区域内であり気になったのでお聞きしたい。
- ・小学校統廃合で浪の平小学校が廃校となるが、貴重な広いスペースであり、この辺を今後どう活用を進めていくのかというのが気になった。

(副市長)

- ・浪の平小学校は、古い校舎を活用するか検討したが、耐震性が非常に低いことが分かり、今の建物のままでは使用することはできないため、解体して更地にするを行っている。今後どう利用していくかは、地元の皆様とも、市においても検討しているところである。ただ、非常に難しいところで、どうするかはまだ決まっていない。こういった活用方法もあるのではといったアイデアを提案いただければ、何らかの形で計画にしていけることも可能かなという気はしている。
- ・先ほどから議論のあった、新しいものを生み出すということ、施設をつくったり、今やるべきことをまずやらなければならないということだろうと思うが、松が枝周辺エリアは高いポテンシャルを持っているところだと思う。
- ・それを上手に活かすようなことを、行政が今までやってこれなかったのは反省点と思う。
- ・グラバー園をどうするか、香港上海銀行をどうするかといった考え方ではなく、歴史が積み重ねられた資産を持っている「まち」をどうしていくか、「まち」として新しいものをどう生み出していくかということを考えていかなければいけないなというのを痛感した。
- ・そういう「まち」としてということを考えて、委員が言われた「新しいものを生み出す自立的な動きをつくっていく」とことと、委員が言われた、「それは背後にその可能性はあるのではないか」ということは、結びつくようなものに考え方としてなっていくのではと思った。そういう可能性をもっと考えていく必要があるのかなと思った。

(委員長)

・熱心な議論を頂きありがとうございました。

以上